

岩石城を
築いた人

たいらのきよもり
平清盛

1118年～1181年

「保元の乱」以降、急速に地位を高めた平家一門。そんな平家隆盛の時代、保元3（1158）年、平清盛が大庭景親に築かせたのが岩石城です。平清盛や頼盛が大宰大式に任ぜられたことから、豊前、筑前、肥前を平家が支配するようになりました。豊前は板井氏・宇佐氏（宇佐八幡宮）、筑前は山鹿氏（芦屋、粥田氏（直方）が平家につき、英彦山や安楽寺（後の太宰府天満宮）の領域をも平家は徐々に侵略していきます、それらを守るために各地に山城を造り家臣を配置しました。



岩石城を
攻めた人

とよとみひでよし
豊臣秀吉

1536年～1598年

天正15（1587）年4月1日。蒲生氏郷、前田利長、大将・羽柴秀勝、合わせて1万人の秀吉軍が、岩石城を守る3千人の兵を攻めました。城側も激しく抵抗を続けましたが、豊前一の堅城と言われた岩石城もわずか一日で落城。秀吉自らが30万もの大軍を率いた出陣には、島津の勢力を抑えるため、兵力をもつて敵方の戦意を喪失させる目的がありました。そのためには初戦の岩石城を短時間で攻略する必要があったのです。岩石城の落城後、九州の戦国大名たちは相次いで秀吉に下り、5月には島津も降伏。6月には九州国分令を発するという速さでした。



歴史に名を残した“岩石者”たち

GAN
JAKU
MON

岩石城を
守った人

あくとあくらべえ
芥田悪六兵衛

不明～1587年

芥田（嘉麻市）で生まれた芥田悪六兵衛は、六尺（約180cm）を超える大男で並外れた力の持ち主。天正10（1582）年、岩石城が秋月氏の勢力下にあった頃、3万の大友軍に取り囲まれ、秋月種実も討ち死に覚悟していたところ、悪六兵衛は単身丸腰で敵地にのり込み、油断した敵大将・臼杵中務を大力で倒して首をとったという武勇伝で知られています。名前の「悪」の字は、感謝として秋月種実がつけたという説も。秀吉による岩石城攻めでは熊井越中守久重と共に岩石城を守りましたが、加藤清正の家臣・貴田孫兵衛（前名・毛谷村六助）と素手で組み合い、あえなく討ち取られてしまいました。



岩石城を
再建した人

ほそかわただおき
細川忠興

1563年～1646年

慶長7（1602）年、徳川家康から関ヶ原合戦の功績により、丹後から豊前に国替えとなった細川忠興は、藩庁を中津城から小倉城に移し、初代小倉藩主となりました。忠興は独自の行政単位である「手永」制度を導入して、添田地区を「添田手永」として統治しました。また9つある支城のうち岩石城にも再建の手を入れました。城跡に残る楔岩は細川の時代になつてからのもので、他にも当時のものと考えられる軒丸瓦や軒平瓦も見つかっています。しかし元和元（1615）年の一國一城令により岩石城は廃城となってしまいました。

